

講義後アンケート（中級編）

I. 本日の講義についてお聞きします。

1. 受けたコースはどれでしたか。

♪♪選択したコース番号（        ）

《コース内容》

- ①「性感染症について多少の知識があるので、質疑応答を中心に、対話形式で性感染症の予防について」
- ②「中学校の教科書を基本に、少し詳しく性感染症の実際について学ぼう」
- ③「中学校の教科書にそって、性感染症を学ぼう」
- ④「性感染症にかからないための、心と体の健康的な生活習慣を学ぼう」

II. 講義の流れについて、皆さんの意見をお聞きします。下記の質問について、選択肢のどれか1つに○をつけてください。

6. コースを選択できたことをどう感じましたか。

1. とてもよかった      2. まあよかった      3. あまりよくなかった      4. 全くよくなかった

7. 学校の先生以外から聞いて、気が楽でしたか。

1. とても思う      2. まあまあ思う      3. あまり思わない      4. 全く思わない

8. クラスの枠をはずして、性・成長発達に応じた講義を受けて満足しましたか。

1. とても満足した      2. まあまあ満足した      3. あまり満足しなかった      4. 全く満足しなかつ

た

9. コースの内容は、いかがでしたか。

1. とても満足した      2. まあまあ満足した      3. あまり満足しなかった      4. 全く満足しなかった

5. コースの内容は、自分にあっていましたか。

1. とてもあっていた      2. まあまああっていた      3. あまりあっていなかった      4. 全くあっていなかった

6. また、違う内容のコースを選択して、受けてみたいと思いますか。

1. とても思う      2. まあまあ思う      3. あまり思わない      4. 全く思わない

7. それはどのコースですか。

- 1. 「性感染症について多少の知識があるので、質疑応答を中心に、対話形式で性感染症の予防について」
- 2. 「中学校の教科書を基本に、少し詳しく性感染症の実際について学ぼう」
- 3. 「中学校の教科書にそって、性感染症を学ぼう」
- 4. 「性感染症にかからないための、心と体の健康的な生活習慣を学ぼう」
- 5. どのコースもあまり聞きたくない

8. 今現在、個別相談したいこと（個人的に聞きたいこと）は聞けましたか。

1. とても聞けた      2. まあまあ聞けた      3. あまり聞けなかった      4. 全く聞けなかった
5. 相談したいことはなかった

9. 性について、どのように感じますか。この設問は、あてはまるものについて、いくつでも○をつけてください。

1. あまり聞きたくない      2. 自分には関係ない      3. 恥ずかしい      4. うしろめたい
5. 話づらい      6. まだ早い      7. 危険なこと      8. 聞きたい
9. 当たり前なこと      10. 気軽な感じ      11. 大人な感じ      12. もっと知りたい
13. 誰もが性に興味を持つと思わないでほしい      14. 誰もが性のトラブルに直面する可能性があると思わない
15. その他（                                ）



3. あなたは、親と充実した時間を過ごせていますか。

1. 十分過ごせている    2. ある程度過ごせている    3. あまり過ごせていない    4. 全く過ごせていない

4. あなたは、地域の中で他の年代（大人・子ども含む）と関わる機会がありますか。

1. よくある    2. 時々ある    3. あまりない    4. 全くない

5. 他人や社会のために、自分の時間や労力を自発的に提供する「ボランティア活動」を、現在していますか。あるいは、以前したことがありますか。

1. 現在、活動している    2. 以前、したことがある    3. 全くしたことがない    4. わからない

6. あなたの家庭内は、過ごしやすい環境になっていると思いますか。

1. 十分なっている    2. ある程度なっている    3. あまりなっていない    4. 全くなっていない

7. あなたのお住まいの地域は、過ごしやすい環境になっていると思いますか。

1. 十分なっている    2. ある程度なっている    3. あまりなっていない    4. 全くなっていない

8. あなたは、同性の友達と集団で外遊び（放課後）していましたか。

1. よくしていた    2. 時々していた    3. あまりしていなかった    4. 全くしていなかった

9. あなたは、普段、友達と話しをしていますか。

1. よく話しをする    2. 時々話しをする    3. あまり話しをしない    4. 全く話しをしない

印西中学校    3 年    組    番    性別：    氏名： \_\_\_\_\_

講義後アンケート（基本編）

I. 本日の講義についてお聞きします。

1. 受けたコースはどれでしたか。

♪♪選択したコース番号（          ）

《コース内容》

- ①「性感染症について多少の知識があるので、質疑応答を中心に、対話形式で性感染症の予防について」
- ②「中学校の教科書を基本に、少し詳しく性感染症の実際について学ぼう」
- ③「中学校の教科書にそって、性感染症を学ぼう」
- ④「性感染症にかからないための、心と体の健康的な生活習慣を学ぼう」

II. 講義の流れについて、皆さんの意見をお聞きします。下記の質問について、選択枝のどれか1つに○をつけてください。

- 1. コースを選択できたことをどう感じましたか。
  - 1. とてもよかった      2. まあよかった      3. あまりよくなかった      4. 全くよくなかった
- 2. 学校の先生以外から聞いて、気が楽でしたか。
  - 1. とても思う      2. まあまあ思う      3. あまり思わない      4. 全く思わない
- 3. クラスの枠をはずして、性・成長発達に応じた講義を受けて満足しましたか。
  - 1. とても満足した      2. まあまあ満足した      3. あまり満足しなかった      4. 全く満足しなかった
- 4. コースの内容は、いかがでしたか。
  - 1. とても満足した      2. まあまあ満足した      3. あまり満足しなかった      4. 全く満足しなかった
- 5. コースの内容は、自分にあっていましたか。
  - 1. とてもあっていた      2. まあまああっていた      3. あまりあっていなかった      4. 全くあっていなかった
- 6. また、違う内容のコースを選択して、受けてみたいと思いますか。
  - 1. とても思う      2. まあまあ思う      3. あまり思わない      4. 全く思わない
- 7. それはどのコースですか。
  - 1. 「性感染症について多少の知識があるので、質疑応答を中心に、対話形式で性感染症の予防について」
  - 2. 「中学校の教科書を基本に、少し詳しく性感染症の実際について学ぼう」
  - 3. 「中学校の教科書にそって、性感染症を学ぼう」
  - 4. 「性感染症にかからないための、心と体の健康的な生活習慣を学ぼう」
  - 5. どのコースもあまり聞きたくない
- 8. 今現在、個別相談したいこと（個人的に聞きたいこと）は聞けましたか。
  - 1. とても聞けた      2. まあまあ聞けた      3. あまり聞けなかった      4. 全く聞けなかった
  - 5. 相談したいことはなかった
- 9. 性について、どのように感じますか。この設問は、あてはまるものについて、いくつでも○をつけてください。
  - 1. あまり聞きたくない      2. 自分には関係ない      3. 恥ずかしい      4. うしろめたい
  - 5. 話づらい      6. まだ早い      7. 危険なこと      8. 聞きたい
  - 9. 当たり前のこと      10. 気軽な感じ      11. 大人な感じ      12. もっと知りたい
  - 13. 誰もが性に興味を持つと思わないでほしい      14. 誰もが性のトラブルに直面する可能性があると思わない
  - 15. その他（

10. 健康的な生活習慣とは何かわかりましたか。
1. よくわかった      2. まあまあわかった      3. あまりわからなかった      4. 全くわからなかった
11. 性感染症とはどのような病気わかりましたか。
1. よくわかった      2. まあまあわかった      3. あまりわからなかった      4. 全くわからなかった
12. 性感染症にかかると、身体にかなりの損害をこうむることがわかりましたか。
1. よくわかった      2. まあまあわかった      3. あまりわからなかった      4. 全くわからなかった
13. 性感染症の脅威を感じることができましたか。
1. とても感じた      2. まあまあ感じた      3. あまり感じなかった      4. 全く感じなかった
14. 性感染症に感染している人たちへの偏見や差別について、考えることができましたか。
1. よくわかった      2. まあまあわかった      3. あまりわからなかった      4. 全くわからなかった

Ⅲ. 普段の生活について、皆さんの意見をお聞きます。下記の質問について、選択肢のどれか1つに○をつけてください。

1. あなたは、普段、親と話しをしていますか。
1. よく話しをする      2. 時々話しをする      3. あまり話しをしない      4. 全く話しをしない
2. あなたは、『親とつながっている』という感じを持っていますか。
1. 十分持っている      2. ある程度持っている      3. あまり持っていない      4. 全く持っていない
3. あなたは、親と充実した時間を過ごせていますか。
1. 十分過ごせている      2. ある程度過ごせている      3. あまり過ごせていない      4. 全く過ごせていない
4. あなたは、地域の中で他の年代（大人・子ども含む）と関わる機会がありますか。
1. よくある      2. 時々ある      3. あまりない      4. 全くない
5. 他人や社会のために、自分の時間や労力を自発的に提供する「ボランティア活動」を、現在していますか。あるいは、以前したことがありますか。
1. 現在、活動している      2. 以前、したことがある      3. 全くしたことがない      4. わからない
6. あなたの家庭内は、過ごしやすい環境になっていると思いますか。
1. 十分なっている      2. ある程度なっている      3. あまりなっていない      4. 全くなっていない
7. あなたのお住まいの地域は、過ごしやすい環境になっていると思いますか。
1. 十分なっている      2. ある程度なっている      3. あまりなっていない      4. 全くなっていない
8. あなたは、同性の友達と集団で外遊び（放課後）していましたか。
1. よくしていた      2. 時々していた      3. あまりしていなかった      4. 全くしていなかった
9. あなたは、普段、友達と話しをしていますか。
1. よく話しをする      2. 時々話しをする      3. あまり話しをしない      4. 全く話しをしない

印西中学校      3 年      組      番      性別：      氏名： \_\_\_\_\_

## 講義後アンケート（初級編）

I. 本日の講義についてお聞きします。

1. 受けたコースはどれでしたか。

♪♪選択したコース番号（ \_\_\_\_\_ ）

《コース内容》

- ①「性感染症について多少の知識があるので、質疑応答を中心に、対話形式で性感染症の予防について」
- ②「中学校の教科書を基本に、少し詳しく性感染症の実際について学ぼう」
- ③「中学校の教科書にそって、性感染症を学ぼう」
- ④「性感染症にかからないための、心と体の健康的な生活習慣を学ぼう」

II. 講義の流れについて、皆さんの意見をお聞きします。下記の質問について、選択肢のどれか1つに○をつけてください。

10. コースを選択できたことをどう感じましたか。

1. とてもよかった      2. まあよかった      3. あまりよくなかった      4. 全くよくなかった

11. 学校の先生以外から聞いて、気が楽でしたか。

1. とても思う      2. まあまあ思う      3. あまり思わない      4. 全く思わない

12. クラスの枠をはずして、性・成長発達に応じた講義を受けて満足しましたか。

1. とても満足した      2. まあまあ満足した      3. あまり満足しなかった      4. 全く満足しなかった

13. コースの内容は、いかがでしたか。

1. とても満足した      2. まあまあ満足した      3. あまり満足しなかった      4. 全く満足しなかった

5. コースの内容は、自分にあっていましたか。

1. とてもあっていた      2. まあまああっていた      3. あまりあっていなかった      4. 全くあっていなかった

7. また、違う内容のコースを選択して、受けてみたいと思いますか。

1. とても思う      2. まあまあ思う      3. あまり思わない      4. 全く思わない

7. それはどのコースですか。

1. 「性感染症について多少の知識があるので、質疑応答を中心に、対話形式で性感染症の予防について」
2. 「中学校の教科書を基本に、少し詳しく性感染症の実際について学ぼう」
3. 「中学校の教科書にそって、性感染症を学ぼう」
4. 「性感染症にかからないための、心と体の健康的な生活習慣を学ぼう」
5. どのコースも聞きたくない

10. 今現在、個別相談したいこと（個人的に聞きたいこと）は聞けましたか。

1. とても聞けた      2. まあまあ聞けた      3. あまり聞けなかった      4. 全く聞けなかった  
5. 相談したいことはなかった

11. 性について、どのように感じますか。この設問については、あてはまるものについて、いくつでも○をつけてください。

1. あまり聞きたくない      2. 自分には関係ない      3. 恥ずかしい      4. うしろめたい  
5. 話づらい      6. まだ早い      7. 危険なこと      8. 聞きたい  
9. 当たり前なこと      10. 気軽な感じ      11. 大人な感じ      12. もっと知りたい  
13. 誰もが性に興味を持つと思わないでほしい      14. 誰もが性のトラブルに直面する可能性があると思わない  
15. その他（ \_\_\_\_\_ ）

10. 健康的な生活習慣とはどのようなことか、わかりましたか。

1. よくわかった      2. まあまあわかった      3. あまりわからなかった      4. 全くわからなかった

11. 心と体の健康的な生活を送るために、今後取り組めそうなことは何がありますか。この設問については、あてはまるものについて、いくつでも○をつけてください。

- |                  |                   |                   |
|------------------|-------------------|-------------------|
| 1. 家族に学んだ事を教える   | 2. 身近な人々に学んだ事を教える | 3. ストレスをためない      |
| 4. 夜の危険な外出を控える   | 5. 親子の会話を増やす      | 6. たばこを吸わない       |
| 7. アルコールを飲まない    | 8. 薬物に手を出さない      | 9. 体を清潔にする        |
| 10. うがい手洗いをする    | 11. 生活リズムを整える     | 12. バランスの良い食事をとる  |
| 13. 1日3回規則正しく食べる | 14. 体を動かす習慣を身に付ける | 15. リラックスした時間を持てる |
| 17. その他 ( )      |                   |                   |

Ⅲ. 普段の生活について、皆さんの意見をお聞きます。下記の質問について、選択肢のどれか1つに○をつけてください。

1. あなたは、普段、親と話しをしていますか。
- |            |            |              |             |
|------------|------------|--------------|-------------|
| 1. よく話しをする | 2. 時々話しをする | 3. あまり話しをしない | 4. 全く話しをしない |
|------------|------------|--------------|-------------|
2. あなたは、『親とつながっている』という感じを持っていますか。
- |            |              |              |             |
|------------|--------------|--------------|-------------|
| 1. 十分持っている | 2. ある程度持っている | 3. あまり持っていない | 4. 全く持っていない |
|------------|--------------|--------------|-------------|
3. あなたは、親と充実した時間を過ごせていますか。
- |             |               |               |              |
|-------------|---------------|---------------|--------------|
| 1. 十分過ごせている | 2. ある程度過ごせている | 3. あまり過ごせていない | 4. 全く過ごせていない |
|-------------|---------------|---------------|--------------|
4. あなたは、地域の中で他の年代（大人・子ども含む）と関わる機会がありますか。
- |         |         |          |         |
|---------|---------|----------|---------|
| 1. よくある | 2. 時々ある | 3. あまりない | 4. 全くない |
|---------|---------|----------|---------|
5. 他人や社会のために、自分の時間や労力を自発的に提供する「ボランティア活動」を、現在していますか。あるいは、以前したことがありますか。
- |              |               |              |          |
|--------------|---------------|--------------|----------|
| 1. 現在、活動している | 2. 以前、したことがある | 3. 全くしたことがない | 4. わからない |
|--------------|---------------|--------------|----------|
6. あなたの家庭内は、過ごしやすい環境になっていると思いますか。
- |            |              |              |             |
|------------|--------------|--------------|-------------|
| 1. 十分なっている | 2. ある程度なっている | 3. あまりなっていない | 4. 全くなっていない |
|------------|--------------|--------------|-------------|
7. あなたのお住まいの地域は、過ごしやすい環境になっていると思いますか。
- |            |              |              |             |
|------------|--------------|--------------|-------------|
| 1. 十分なっている | 2. ある程度なっている | 3. あまりなっていない | 4. 全くなっていない |
|------------|--------------|--------------|-------------|
8. あなたは、同性の友達と集団で外遊び（放課後）していましたか。
- |           |           |               |              |
|-----------|-----------|---------------|--------------|
| 1. よくしていた | 2. 時々していた | 3. あまりしていなかった | 4. 全くしていなかった |
|-----------|-----------|---------------|--------------|
9. あなたは、普段、友達と話しをしていますか。
- |            |            |              |             |
|------------|------------|--------------|-------------|
| 1. よく話しをする | 2. 時々話しをする | 3. あまり話しをしない | 4. 全く話しをしない |
|------------|------------|--------------|-------------|

印西中学校      3 年      組      番      性別：      氏名： \_\_\_\_\_

## 性の健康教育をめぐる地域と学校の連携のあり方に関する研究 ～予防医学的価値と教育的価値の相克と超克～

鈴木 茜 千葉県印西市中央保健センター  
松浦 賢長 福岡県立大学看護学部地域国際看護学

今回、中学校から（印西市）保健センターに保健師による（性感染症についての）出前講座の依頼があった。出前講座をクラス一律に実施することは、子どもたちの意識の多様性や希望、あるいは発達を考慮することが困難なため、保健センター側では、難易度別コース講義の実施を提案し、学校側との協議にはいった。その過程では、学校（教諭）、地域保健師、アドバイザーの3者間でのやりとりが行われた。これらの関わりのある方は、地域を軸にした各種の連携を確立していくうえでモデルとして活用できるものと思われ、特長をまとめた。

1. アドバイザーは地域保健側にも学校側にも、新たな視点や最新の理論・情報を与える。保健師はその情報を知識に変えてゆき、学校側との連携を図るための手段として活用することができる。
2. 地域保健師は、生徒が記入した講義評価などのデータを統計的に分析することができ、それらの結果を学校保健側に還元できる。重要な連携のひとつといえた。
3. 連携を図るためには地域保健師の専門性や得意分野を積極的に学校側に伝え、理解を得ることが重要である。また同様に相手側の専門性や得意分野を意見交換等によって理解することも重要である。
4. 予防医学的価値と教育的価値は、相容れないことがある場合には、お互いの議論をつくすまでコミュニケーションをとることが重要である。

### I. 研究の目的

今回、学校から地域保健分野へ、性の健康教育に関する協力依頼があった。地域保健側が学校にどのように関わり、その専門的役割を果たしていけばよいのか、アドバイザーとのやりとりを中心とした過程について検証し、今後の学校保健分野と地域保健分野の連携のあり方、システム構築に向けた取り組みについて検討することとする。

### II. 研究の方法

#### 1. 対象

対象学校は千葉県印西市立印西中学校、対象となった教職員は、学校長、保健体育科担当教諭、養護教諭、家庭科担当教諭等で、キーパーソンは養護教諭と保健体育科担当教諭であった。出前講座の対象生徒は、中学3年生全員（131名/3クラス）であった。アドバイザーは、共同研究者の松浦が担当した。

### 2. 方法

平成16年10月20日、千葉県印西市市立印西中学校3年生の「性感染症について」というテーマの講義依頼が市の保健センターにあった。講義実施までの学校との関わりと実施後の学校側の反応をまとめた。また、「学校側への介入と反応」「アドバイザーからの指導」「保健センターでの意見交換」についてもまとめた。さらに、3者間での会議についてもまとめ、担当者間の連携のあり方を考察した。

### III. 連携の実際

#### 1. 学校との関わりを始めた経緯

平成16年9月、千葉県印西市立印西中学校校長より印西市中央保健センター所長へ、「性感染症」に関する（保健師による）講義依頼があった。その後学校と保健センターで打ち合わせを重ね、平成16年10月20日に実施した。



## 2. 3者の関係体制

学校長から保健センター所長への教育依頼から関係がスタートした。また地域保健師はアドバイザーの助言を得ることにより、子どもたちの性の健康教育の効果を高められると考え、3者間の関係を図った。

アドバイザーからの助言をもとに保健師間での意見交換を行い学校側へアプローチし、また保健師の疑問などをアドバイザーから助言してもらうという体制を継続した。依頼から実施までの経緯は表1のとおりであった。

## 3. 3者の関わり

学校、アドバイザーとの関わりについては、それぞれ表2、表3の通りであった。

学校との関係づくりのためにできるだけ保健師が学校現場へ出向き対話を重ねた。顔を知らず、お互いの職務を知らないはじめの段階では、率直な意見交換をするまでには至らなかった。しかし、保健師と学校側双方の職務や専門性、子どもたちの健康支援者としての得意分野や専門性を互いが理解するにしたがって、学校側からの意向が地域保健側にもたらされるようになった。疑問や質問事項も増え、有効な意見交換をするまでの関係性を有することができた。

アドバイザーとは電子メールや電話連絡が主な手段であった。遠隔地を活動の拠点としているアドバイザーとの関わりに大変有効な手段であった。

## IV. 考察

思春期の子どもたちをサポートする教育現場（学校保健分野）と地域（地域保健分野）では、それぞれの分野で目的や目標、性に関する意識の考え方や捉え方に違いがあることがわかった。

これは、学校教諭との対話の中で「学んできたことがない」「教育という分野での考え方とは違う」などの意見から理解できたことである。それぞれの培われてきた視点や考え方のベースが違うため、同じテーマの問題点を議論しても、話の論点に違いが生じるのではないかと思われた。教育的価値と予防医学的価値の違いである。

3者の関わりから、学校保健分野の特徴、アドバイザーとの関わりによるメリットが明らかと

なった。そこから地域と学校との連携を成功させるための条件を検討した。

### 1. 学校保健分野の特徴

#### (1) 利点

- ① 子どもたちのことをとてもよく理解している
- ② 子どもたちと毎日を過ごす身近な存在、子どもたちへの影響力が大変大きい
- ③ 子どもたちからの信頼が厚い
- ④ 子どもたちを心から信じている
- ⑤ 子どもたちの幸せに対する熱意を持つ
- ⑥ 学校内の教員同士のチームワークが良好
- ⑦ 性教育は道徳的観点によって構成されている
- ⑧ 教育の専門家であり教育力に勝るものはない
- ⑨ 媒体づくりが大変得意である
- ⑩ 板書や授業構成はプロ、教育の専門家である

#### (2) 欠点

- ① 最新の保健統計を把握していない
- ② 性感染症の知識があいまい
- ③ 科学的な情報を得ることが得意ではない
- ④ データの集計や分析力は不得意
- ⑤ 「知識を与えれば性行動がコントロールできる」と信じている（知識－行動モデル依存）
- ⑥ 学校は、全員に一斉一律の教育をするべきという考えがある（小集団対応が困難）
- ⑦ 現在の中学校教科書の性に関する内容は、中学生には不足しているという考えがある
- ⑧ 性について「関心や興味の有無に関わらず、全員に知識を与えなければならない」という思いがある（知識－行動モデル依存）
- ⑨ 個別的な支援は、従来の学校性教育では難しいという意識が強い
- ⑩ 性に関する講義を難易度別にわけることへの抵抗感がある
- ⑪ 授業時間の制限がある

### 2. アドバイザーの関わりによるメリット

- ① 最新の研究結果や国の方針等を情報提供してもらうことができる
- ② 地域保健師の専門性や得意分野を意識するきっかけを与えてくれる
- ③ 地域保健師が意識化していない疑問点や不明点を言語化し問題が明確化され、そのための対策に導くことにつながる

- ④ 学校との連携をはかるための条件やポイントの指摘により、保健師が学校との関わりのあり方を考える機会となる
  - ⑤ 連携に必要な学校保健分野の特徴を知るためのレクチャーを受けることで、相手を知ることにつながる
  - ⑥ 新しい性教育の考え方についての助言を受け、集団一律ではない性に関する講義を展開し新しい試みを実行することができる
  - ⑦ 事前事後調査の結果を統計的に分析し、学校教諭への説明資料として活かしていけることを学び、科学的な考え方での情報提供をする重要性を理解することにつながる
3. 学校保健分野との連携のための条件
- ① 互いの顔や名前を知る
  - ② 互いの職種や職務、得意分野を知る
  - ③ フットワークを軽くし、気軽に行き来する
  - ④ 意見交換を交わし、互いの考え方を知る
  - ⑤ 互いの分野の目的や目標を理解する
  - ⑥ 考え方のベースとなっている互いの分野の特徴を知る
  - ⑦ 気軽に相談したり情報交換できる関係づくり
  - ⑧ 研究者であるアドバイザーを交えた関係

#### IV. まとめ

今回の学校教諭、地域保健師、アドバイザーの3者の関わりは、連携を確立していくうえでモデルとして、他校や他の関係分野との連携を図るうえでも活用できるものと思われ、以下の通り特徴をまとめた。

- 1. アドバイザーには地域保健側が意識していない視点の気づきを与える。最新の理論や情報を伝える役割がある。保健師は情報を知識に変えてゆき、連携を図るための手段として活用することができる。学校現場への新しい対策の導入を支援することができる。
- 2. 地域保健師は、科学的視点でデータを統計的に分析することができ、理論的に子どもたちの健康支援のための目標をもった保健活動を行うことができる。それらを学校に還元できる。
- 3. 連携を図るためには地域保健師の専門性や得意分野を積極的に伝えて理解を得ることが重

要である。また同様に相手側の専門性や得意分野を意見交換等によって理解することも重要である。

#### VII. 参考文献

- 1. 松浦賢長他：教員における性教育の専門性に関する研究～小中高校および教員養成大学における性教育の開講状況に関する調査から～，厚生労働科学研究（子ども家庭総合研究事業）報告書，2003
- 2. 松浦賢長他：学校性教育をめぐる連携の理論構築に関する基礎的研究～性教育学を構築していくための試練の第一歩として～，厚生労働科学研究（子ども家庭総合研究事業）報告書，2003
- 3. 松浦賢長他：新しい性教育の展開に関する基礎的研究，厚生労働科学研究（子ども家庭総合研究事業）報告書，2003
- 4. 松浦賢長：新しい時代の性教育を考える～思春期の性問題に対する現行学校性教育の限界～，日本性教育協会（JASE）研究月報，2004.5
- 5. 松浦賢長：いのちを教える，児童心理臨時増刊号，2005.1

表1

	学校側の動きや反応など	保健師の動きや考えなど	アドバイザーとの関わり、助言内容
9/15	印西中学校校長より印西市中央保健センター所長へ、3年生への性教育の依頼が電話で入る。	依頼教育について、所長から報告を受ける。	
9/28	養護教諭へ、初回連絡（電話にて）。 養護教諭から保健師への正式依頼。 3年生全員（134名）を集会室に集めて一斉講義として、性感染症をテーマにした教育依頼であった。	母子保健班保健師3名で受けることになる。	
9/30	第1回打ち合わせ（顔合わせ） 養護教諭と保健師での実施。 学校側の意向、依頼内容、目的、学校側の意識の確認。		
10/4			9月からの経緯等について相談し、助言を得る。 ①学校からの依頼内容について報告 ②保健師としての疑問点等の相談 ③生徒の選択による難易度別コース方式の導入の提案、助言を受ける ④生徒の希望調査で4グループ化（上級、中級、初級、性以外の内容）すること ⑤学校側へ伝えるために保健師間で内容検討すること ③性に関する意識調査結果から、性に関して関心が高い生徒は一部であることが明らかになるはず。これにより、難易度別の必要性を説明することができる。
10/6		保健師間でアドバイザーからの助言をもとに内容を検討。 ①保健師自身、学校からの依頼で3年生全員一斉という方式に疑問を抱いていたため、難易度別コース方式という新しいスタイルでの教育実施に向けて取り組むという意見で一致する。 ②内容の検討 ③保健師としての方針の検討	
10/7	養護教諭へ電話連絡。 ①難易度別コースによる性の健康教育の導入の考えを伝える。学校側での検討をしたいという回答を得る。（3年生全員一斉でなく保健師3名と教員1名		

	での難易度別分け方式での教育実施の旨を伝える。)		
10/9			電話連絡にて助言を受ける。 性感染症についての難易度別コースの実際について、助言を受ける。
10/13 AM		保健師間でアドバイザーからの助言をもとに検討。 ①事前調査票作成 ②性に関する意識の把握をどのように行うか(表現、言葉の選択) ③中学3年生の言葉の理解度 ④上級コースのすすめ方について	電話連絡にて助言を受ける。 ①難易度別の各コースの目標と内容について ②事前意識調査について ③その他 *責任ある性行動とは *生徒の選択による難易度別コースの性の健康教育について
10/13 PM		保健師間でアドバイザーからの助言をもとに検討。 ①事前調査票の修正と検討 ②事後調査票の作成 ③各コース内容の検討(目的/目標) ④明日の学校との打ち合わせに向けた提示内容の検討	質問事項、事前調査票(案)をメール送信。 その後電話にて助言を得る。 ①事前調査票内容 ②上級コース内容 ③その他
10/14	第2回打ち合わせ印西中にて実施(護教諭、保健体育科担当教諭、保健師) ①学校側の意向の確認 ②講義構成(目的等)、難易度別コースの性の健康教育導入について資料提示し説明 ③初級編の「性を扱わない」コースの必要性を説明 ④1クラスを学校の先生に協力依頼したい旨を伝える ⑤性教育のあり方をめぐる意見交換 ＜教員の反応＞ ①全員一斉指導で教科書外の詳しい話を保健師のみでしてほしい ②高校に行ってから学ぶことも、高校できちんと学べるかわからない。中学で教えたい。 ③性の関心の有無に関係なくすべき ④事前事後調査の了解が得られる。	第2回打ち合わせ終了後、保健師間で話し合う。(反省点、意見交換) ①学校の要望と、保健師としてのねらいが一致せず、議論を交わしたことで、互いの熱意を交換することができた。 ②従来の学校性教育とは違うスタイルのため、理解が得られにくく、全員一斉で保健師が考える上級、中級レベル(従来から行っている内容)の要望は保健師の目的とは違うためそのまま受けられなかった。 ③教員と意見交換で来年度以降の継続体制について話が出たことは、今後の学校との連携の第一歩に。	メールにて助言指導を受ける。
10/15	事前調査の実施		電話にて経過報告し助言を受ける。 ①前日の学校との打ち合わせの報告 ②学校との関わり方、連携のあり方について助言を受ける。 *保健体育科の教員の熱意は尊重し

			ていくこと。 * 今後の連携構築の話題が出たことは評価できる * 来年度は3回に（生徒・保護者・教師の選択）なるとよい
10/16	事前調査結果を手渡すため学校へ。	事前調査データ入力と集計	メールにて事前調査結果を送信。
10/17			メールと電話連絡により助言を受ける。 ①教育案について ②その他
10/18 A M		保健師間でアドバイザーからの助言をもとに講義内容の検討。 講義内容（案）をアドバイザーにメール送信。	電話にて助言を受ける。 ①基本編の内容のポイント（偏見と差別、症状がないことによる広がり、健康を脅かす感染症のひとつとしてSTDを） ②中級編のポイント（待てのメッセージ、若干の脅威を認識させる）
10/18 P M		保健師間でアドバイザーからの助言をもとに講義内容の検討。 講義内容（案）をアドバイザーにメール送信。	電話にて助言を得る。 ①基本編内容の再確認（初級編と基本編は健康主体） ②中級編内容の再確認（脅威の認識と性行動のデメリット・危険性） ③初級編について ④その他
10/19	第3回打ち合わせ印西中にて実施（養護教諭、保健体育科担当教諭、保健師） ①教室の確認 ②各コースの人数 ③当日の学校教員の動き（見学） ④意見交換 ⑤連携について ⑥カフェテリア方式の他校への周知	講義内容、配布資料、教育案の再検討と作成。 アドバイザーにメール送信。	メールにて、助言指導を受ける。
10/20 6 時間目 (50 分間)	講義実施後、校長室にて、中央保健センター所長、保健師での意見交換 ①校長より、外部からの講師は大切。今後も関係を継続していきたい。また、生徒の選択による講義展開は、他校にも伝えていきたい	カフェテリア方式による性感染症の講義の実施（保健師3名、3コースにて）	講義実施後の報告を電話にて行う。
10/20 夕方		保健センターに戻り、反省会 ①事後調査データ入力 ②事後調査結果からの意見交換 ③事業展開後の生徒の反応等について意見交換 ④その他意見交換	

10/21	<p>第4回打ち合わせ印西中にて実施（養護教諭、保健体育科担当教諭、保健師）</p> <p>①事後調査結果の資料提示</p> <p>②講義反省点等意見交換</p> <p>③保健体育科担当教諭より、性を取り扱わない初級編についての不安の意見あり</p> <p>④保健師からの提案として、今後も意見交換や情報交換をしながら保健活動をすすめていきたい。地域と学校の連携により子どもたちの健康支援を行っていききたい。アドバイザーを講師としてお招きし、新しい性教育について学ぶ機会がもてるという。（11月に他の研究会のアドバイザーとして千葉に来ていただく予定あり）</p>	<p>第4回打ち合わせ後の感想、意見交換を保健師間で行う。</p> <p>①ようやく学校側とざっくりとした意見交換ができる関係づくりができたことを評価。</p> <p>②生徒の選択による難易度別コースの性の健康教育に対し、教師が興味を持ち始めている。疑問や意見の違いがあっても話し合えることこそが、今後関係作りに重要では。</p> <p>③性に対する意識は、まだ保健師と教師で同じ方向性を見出せていない。今後研修会などができればよいと感じ</p>	<p>事後調査結果、第4回打ち合わせについての報告をメール送信。</p>
10/26	<p>養護教諭から、コンドームのパール指教（避妊成功率）で質問の電話あり。</p>		
11/上旬		<p>養護教諭へ会議に向けての電話連絡</p>	
11/15			<p>3者（学校、地域保健師、アドバイザー）での会議を印西中学校にて実施。（5時間目—45分間、校長、教務主任、保健体育科担当教諭、家庭科担当教諭、養護教諭、アドバイザー、中央保健センター所長、保健師）</p> <p>①保健師より、10月20日のカフェテリア方式による性教育実施前後の生徒への意識調査結果についての説明</p> <p>②学校教諭から、アドバイザーへの新しい性教育の考え方、性教育学理論、カフェテリア方式性教育への質問</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 「性に対して敷居を高める」ということは共感する。</li> <li>* 中学校で「性行為」「SEX」「コンドームの装着の実践」は教えるべきだと考えている。</li> <li>* 高校に進学しても、中退する子どもはいる。高校で学べるという保証はない。</li> <li>* 高校でアンケートをしたところ「性感染症について知らない」生徒が40%であった。</li> <li>* 中学校の教科書が改訂され、コンドームの写真も載っている（実際には掲載されていない）のに、それでも話さないというのか。</li> <li>* 生徒の選択では、自分の興味あるものしか選ばないと、他のものを聞くことが出来なくなってしまうので心配。</li> <li>* 文部科学省の方針がよくわからない</li> </ul> <p>③アドバイザーから、学校教諭からの意見に対する回答（質疑応答）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 高校でやめることを前提にしない。数名のために全員にやるという考え方はナンセンス。個別対応していくこと。</li> <li>* 中学校は、中学校の教科書レベルまで。対応しきれない生徒に対してだけ、今後個別フォローしていくことが大切</li> <li>* 知識によって性行動をコントロールできることとは難しいことがわかっている。（教えれば性行動をコントロールできるわけではない）</li> <li>* 学校は「教育的価値」を、公衆衛生の立場は「予防医学的価値」を重視。教育的価値とは「人格を育てる」こと、予防医学的価値とは「STD、妊娠等への対策」であり、自分の立場、専門分野を行っていくことが重要。自分の専門性を第一に考えて欲しい。そのうえで、連携を図っていくことが大切である。</li> <li>* 親の価値観は多様化している。多様化しているということは個別化していく必要があるということである。</li> <li>* 世界すべての社会では性に対する慎みがある。学校の先生でも「できるだけ触れたくない、照れる、恥ずかしい」と避けてしまうのがふつうであり、それは決して問題ではない。</li> <li>* カフェテリア方式は本来3回のセッションからなる。①生徒の選択②保護者の選択③教師の選択。3回のうちに必要な子どもはどこかで受けることができる。前提に学校の安定した状態や保護者との関係が築けていることが重要。</li> </ul>

	<p>*思春期の性の問題というゴールが問題視されている。入り口からのアプローチが大切。ゴールのためにどうしたらよいかが重要である。これには性を扱わないプログラムもある。</p> <p>④子どもたちをサポートしていくための意見交換</p> <p>*本来地域は学校へ、話し合い、連携を図るためにどんどんフットワークを軽くして出て行くことが大切。</p> <p>*学校と地域が今回のように話し合いを重ね、お互いの事を理解したり、顔見知りになったり、連携して何かをやっている関係になったことがとても良い。今後も継続して行ってほしい。</p> <p>6時間目の1年生の「命の大切さ」(T-T講義)の見学</p> <p>①急遽、決定する。見学者・アドバイザー、保健師</p> <p>6時間目終了後、校長室にて学校の現状等意見交換の実施 (校長、教務主任、アドバイザー、保健師)</p> <p>*学校保健と地域保健との連携は、必要性を感じていても実際に行動に移すところまでいっていない現状がある。研究班では、そのシステム構築についての研修会等を行っている。</p> <p>*印西中は職員同士のチームワークにより、学校の安定が図れてきた学校である。</p> <p>*保健センターとの連携が今年はずっと、関係ができたことはとてもよいことだと思っている。</p>	
11/17	<p>保健体育科担当教諭との対話</p> <p>①アドバイザーからのレクチャーに対する意見等</p> <p>*知識があっても性行動とは関係が薄いという考え方は理解しがたい。</p> <p>*生徒を信じ、人間性を育てながら知識を与えていけばよいと考える。</p> <p>②今回のカフェテリア方式の導入にあたっての感想等</p> <p>*保健師の協力があつたのでできたが、いなければ難しい。</p> <p>*保護者の選択という点について、難しさを感じる。</p> <p>③保健師からの提案</p> <p>*事後調査等において、また違うコースをききたいという生徒が多かつたため、可能であれば卒業までに希望者に実施するなどの企画はどうか。</p>	メールにて報告
12/21	<p>家庭科担当教諭との対話</p> <p>①アドバイザーからのレクチャーに対する意見等</p> <p>*コンドームの装着実践が中学校レベルではなくとも必要だと考えているため、今後も学校で継続していきたい。</p>	メールにて報告
1/中旬	家庭科担当教諭から、性に関する雑誌の記事をいただく。	メールにて報告
1/下旬		アドバイザーによる「世界エイズデーシンポジウム特別講演」の資料を印西中学校養護教諭へ手渡す。

表2 学校との関わりの内訳

電話連絡	5回
事前打ち合わせ	3回
実施後打ち合わせ	4回
会議(3者にて)	1回
学校へ向かった回数	11回

電話での助言指導	7回
直接指導	1回
会議(3者にて)	1回
学校へ向かった回数	1回

表3 アドバイザーとの関わりの内訳

メール送信報告	8回
メールでの助言指導	3回

## 中学生を対象とした難易度別コース方式による性の健康教育のあり方に関する研究 ～コースの設定と講義内容の検討～

鈴木 茜	千葉県印西市中央保健センター
平川 知恵	千葉県印西市中央保健センター
谷川紗知子	千葉県印西市中央保健センター
松浦 賢長	福岡県立大学看護学部地域国際看護学

性に対する価値観の多様化や性の成長発達の個人差への考慮から、性教育のあり方が見直されつつある。今回、学校側から中学3年生を対象とした性感染症をテーマとした出前講義の依頼があった。地域保健側からは、それに応えるかたちで、生徒が選択できる難易度別コース形式を学校へ提案し、調整の末、実施に至った。同講義を実施後、受講した生徒へ意識調査を行い、コース設定と講義内容について検討を加えた。

1. 生徒が性の成長発達に応じてコースを選択することができるよう、内容を具体的に提示することが重要であった。
2. コースの設定には、学校との調整を行うために準備期間にゆとりをもち、学校側と地域保健側、双方での共通理解を図っていくことが成功の鍵である。
3. 性のイメージには個人差があり、中学3年生ではそのばらつきが大きい。それに対応するためには細かなコース設定をすることが必要である。
4. 細かなコースを設定するためには、学校側の協力が必要不可欠である。
5. 性の成長発達に応じた講義が受けられるためには、生徒の選択によるものに加え、保護者の選択や教師の選択による何らかのセッションによる必要がある。
6. 思春期の性の問題に直面するリスクの高い生徒には、より少人数制のコースが設定されるよう、地域保健師の専門性を活かした支援が必要である。

### I. 研究の目的

今回、学校から地域保健側へ、性感染症に関する出前講義の依頼があった。地域保健側からは、それに応えるかたちで、生徒が選択できる難易度別コース形式を学校へ提案し、調整の末、実施に至った。同講義を実施後、受講した生徒へ意識調査を行い、コース設定と講義内容について検討を加えた。今後、性の問題をめぐる地域と学校の連携において、新しい講義形式となりえると考え、その経過と調査結果についてまとめたので報告する。

### II. 研究の方法

#### 1. 対象

対象は千葉県印西市立印西中学校3年生全員（131名／3クラス）であった。

#### 2. 方法

千葉県印西市立印西中学校3年生の性教育は5単位で構成されている。今回はそのうちの1単位である「性感染症について」のテーマを、保健師が生徒の選択による難易度別コース方式にて平成16年10月20日実施した。

評価として、生徒への事後調査を講義時間内に実施した。この事後調査結果をもとに分析を行った。

#### 3. 調査内容

大別すると、属性、選択したコース、今回の新しい形式での講義の満足度、各コースの目標項目に関する理解度である。

### III. 結果

#### 1. 子どもたちの特徴



男子61名(46.6%)、女子70名(53.4%)、全体で131名であった。

## 2. コースについて

4段階のコース「上級、中級、基本、初級」を設定した(資料1~5)。学校との検討の結果、今回上級編は実施せず「中級編、基本編、初級編」の3コースを保健師3名がそれぞれ受け持ち同時に実施した。

## 3. コースの満足度

コース内容の満足度は表1のとおりである。全体では「とても満足した」「まあまあ満足した」を合わせると9割以上の生徒が満足していたことがわかった。特に初級編で「とても満足した」割合が高い結果であった。

コースの選択が自分に合っていたかという適性度は表2のとおりである。全体では「とても合っていた」「まあまあ合っていた」を合わせると8割以上の生徒が合っていたと感じたことがわかった。初級編で「とても合っていた」割合が最も高かったが、同時に「あまり合っていなかった」「全く合っていなかった」を合わせると3割弱の生徒がそう感じており、初級編がコースの適性度に最もばらつきがあった。逆に中学校の教科書レベルである基本編はばらつきが最も少なく9割以上が合っていると感じていたことがわかった。

コースの満足度は、表3のとおり、コースの適性度と関連していることがわかった。コース選択が自分に合っていたと感じた生徒はコース内容にも満足している傾向があることがわかった。

今後また違うコースを選択して受けてみたいかという設問の結果は表4のとおりである。中学校教科書レベルの基本編は「あまり思わない」生徒が半数を占めていた。初級編で最も多くの生徒が「とても思う」と回答し「とても思う」「まあまあ思う」を合わせると約9割の生徒が違うコースを選択することを望んでいることがわかった。

今後また違うコースを選択して受けてみたいかという希望状況と、コース内容への満足度、コースの適性度との関係を表5、6に示した。その結果、コース内容の満足度との有意な関連はなかった。コース内容が自分に全く合っていなかったと感じた生徒は全員が違うコースを選択したいと希望していたが、有意な関連はなかった。

違うコースを選択して受けてみたい場合の、次の選択コースについては表7のとおりである。中級編の生徒は「初級編」を最も多くの生徒が選択しており、逆に初級編の生徒は「基本編」を飛ばして「中級編」を選択している生徒が最も多いことがわかった。基本編の生徒は、「上級編」「初級編」にほぼ均等に分かれていた。

## 4. 性のイメージの変化

事前事後での、性に対するイメージを表8に示した。全体的に多かったものは、順に「話しづらい」「まだ早い」「恥ずかしい」「当たり前のこと」「大人な感じ」であった。全体で事後に特に少なくなった項目は「話しづらい」であり、全体で事後に特に多くなった項目は「危険なこと」「もっと知りたい」であった。

事前事後での変化は、各コースによって特徴が見られた。

中級編では、「自分には関係ない」「話しづらい」の2項目が全体の割合と比べて少なく「聞きたい」が多かった。他のコースと違う点は「あまり聞きたくない」「まだ早い」の2項目が事後に多くなったことであった。「危険なこと」は約4倍に増えており、他のコースと比べ増加が大変多かった。

基本編では、「あまり聞きたくない」「話しづらい」が全体の割合と比べて多かった。他のコースと比べて事後に特に多くなった項目は「当たり前のこと」「大人な感じ」であり、約2倍の増加がみられた。

初級編では、「自分には関係ない」「誰もが性のトラブルについて直面すると思わないで欲しい」が全体の割合と比べて多かった。他のコースと比べて事後に特に多くなった項目は「危険なこと」「もっと知りたい」であり、約2倍の増加がみられた。

## 5. 中級編についての評価

- テーマ：『中学校の教科書を基本に、少し詳しく性感染症の実際について学ぼう』
- 短期目標：性感染症の脅威を感じ、性行動に対し、一歩踏みとどまる思いを持つことができる。
- 長期目標：性に対して敷衍が高まり、性行動をとらない。
- 配布資料・「性感染症について」ワークシー

ト

○講義の流れ・ワークシートを使用した学習、保健師による講義

中級編の生徒の講義内容の理解度は、表9～20に示した。「性感染症について」「性感染症の脅威について」「性感染症にかかって身体に大きな損害をこうむらないために、性行動に対し、一歩踏みとどまる気持ちが持てたか」「今後、性行動をしないということ（最善の予防策）について」は、51名すべての生徒の理解が得られた。

また、講話で印象に残ったことでは、「生まれてくる子どもに感染する」「感染していても気付かない人が沢山いる」で、中級編を選択した生徒の3分の2が答えており、その他の項目でも多くの生徒が印象に残ったと回答していることがわかった。

#### 6. 基本編についての評価

●テーマ：「中学校の教科書にそって、性感染症を学ぼう」

●短期目標：健康を脅かす感染症のひとつの性感染症を知ることができる。同時に感染している人たちへの偏見や差別に気づき、それらへの考え方を学ぶことができる。

●長期目標：性に対して敷居が高まる。

○配布資料・「健康のイメージ」「健康のために日頃できること」「性感染症について」ワークシート

○講義の流れ・ワークシートを使用した学習、保健師による講義

基本編の生徒の講義内容の理解度は、表21～25に示した。「性感染症にかかると、身体にかなりの損害をこうむること」については、41名すべての生徒の理解が得られた。基本編で短期目標にあげた「性感染症に感染している人たちへの偏見や差別についての学習」については、41名中1名を除いて「よくできた」「まあまあできた」を回答しており、生徒の理解が得られた。

#### 7. 初級編についての評価

●テーマ：「性感染症にかからないための、心と体の健康的な生活習慣を学ぼう」

●短期目標：心と体の健康的な生活習慣について

学び、健康的な行動を考えることができる。

●長期目標：性感染症にならないための土台ができ、健康を保つことができる。

○配布資料・「健康のイメージ」「健康のために日頃できること」「生活習慣等チェック表」ワークシート

○講義の流れ・ワークシートを使用した学習、グループワークでの討議、保健師による講義

初級編の生徒の講義内容の理解度は、表26～27に示した。37名すべての生徒が健康的な生活習慣について理解していることがわかった。

今後の健康的な生活の取り組みとして「1日3回規則正しく食べる」「薬物に手を出さない」「うがい手洗いをする」の3項目で7割以上の生徒が考えたことがわかった。しかし、学んだことを家族や身近な人に伝え、親子で会話をするというのをあげる生徒は少なく、健康的な生活とこれらの項目の結びつきが弱いことがわかった。

#### IV. 考察

##### 1. コース設定に関する課題と対策

① 生徒にあったコースが選択されるためにはコース内容の明示が必要である

難易度別のコースを設定した生徒の選択では、各コース内容の詳しい説明文がないと各コースのイメージがつきにくく、自分の性・成長発達に応じた内容のコースを選択することが難しいと考えられた。今後は、コースの内容についての詳細を明示し、生徒が自分に合っていると事前に考えられて選択できるような工夫が必要であると考えられる。

② よりきめやかな教育内容のコース設定の検討が必要である

生徒の性に対する意識に差があることを考慮し、今後は男女別や難易度別に加えテーマ別を入れた細かなコースの設定にしていくことで、1グループの生徒の人数を10～20人程度の小集団にし、よりきめやかな教育内容の検討が必要と思われた。

③ ハイリスクの生徒への支援には、学校教師の協力が重要である。

将来性の問題に直面する可能性のあるリスクの高い生徒への対策のためには対話形式で質疑応答を中心にした上級編レベルの講義が適していると思われる。数人であっても教師と協力することによって実施できる体制を整えていく必要がある。

学校という集団指導でのシステム環境では個別的支援という環境があまり主流ではないことを考え、学校側の理解を得ながら地域保健師がサポートしていく部分であると考えられる。

- ④ 生徒に合うコースが受けられるために、数回の講義を重ねた継続性のあるカリキュラムの検討が求められる

リスクが高い生徒が上級編や中級編を受けられるためには、生徒の選択だけでは達成できない。単発ではなく継続させ、保護者や教師によるコース（内容）選択も取り入れた2～3回のセッションで体制を整えていくことを検討していくことが今後の課題である。

- ⑤ 地域保健側と学校側との意識のずれが課題であり、議論を交わし互いの専門性を活かせる関係づくりを目指す

学校側は性に関するテーマを取り扱わないことに関し難色を示し、学校保健分野と地域保健分野での意識の共有が困難な状況にあった。感染症予防の視点での論議を教育現場と行い、健康支援のための共有点を見出していかなければならない。また、既存の学校性教育との関連について今後学校側と調整した上で講義を実施していくことが大きな課題として残った。

それぞれの立場での性に関する教育の目的・目標（長期・短期）を明らかにし、互いの専門性を活かし融合させ、子どもたちに視点をおいた教育プログラムを見出していくことが重要であると考えられた。

## 2. 各コース内容に関する課題と対策

生徒の事前事後調査結果から、より効果の高いコース内容の検討を行い、以下にまとめた。

### ①中級編

【設定】中学校の教科書よりも詳しい内容

【対象】近い将来性行動にいたるリスクがある子どもたち

【目的】今後性の問題のリスクのあるレベルの子どもたちのリスクが低くなる

【目標】

- ・長期目標：「性に対して敷居が高まり性行動をとらない」
- ・短期目標：「性感染症の脅威を感じ性行動に対し一歩踏みとどまる思いをもつことができる」

【課題・対策】

- ・ハイリスク群であるため、視覚的教材等を活用させて性感染症の脅威（罹患性と重大性）を認識させるよう支援していく必要がある。

- ・ハイリスク群が性交開始に至らず、性の健康が保てるように配慮されたコースとして、定着させていく。

- ・個別相談につながる環境づくりが課題である。

### ②基本編

【設定】中学校の教科書レベル

【対象】近い将来性行動にいたるリスクが低い子どもたち

【目的】中学校の教科書レベルの性感染症の学習ができ、将来的に健康が保てる

【目標】

- ・長期目標：「性に対して敷居が高まる」
- ・短期目標：「性を脅かす感染症のひとつとして性感染症を知ることができる。同時に感染している人たちへの偏見や差別に気付き、それらへの考え方を学ぶことができる」

【課題・対策】

- ・既存授業との関連が最も難しく、すでに直前に学校の教師によって学習した内容のものと重複する部分が多いため、そのことで生徒の満足度も得られにくくなっていた。
- ・準備期間に既存授業との兼ね合いが論議され、役割分担を果たせるプログラムになる検討が必要である。
- ・性感染症を他人事としてみないことや性感染症患者を偏見視しないことに対する配慮が最も必要なコースで、誤ったイメージとならないよう配慮する。
- ・性を特別視できる力を育てることが、このコース対象の生徒には必要と思われる。学校教師の専門性が最も発揮されるコースと考えられ、地域保健師は相談役として支援していくよう、役割分担が必要である。

### ③初級編

【設定】性を直接取り扱わないコース「感染症にかからないための健康づくり」

【対象】性については聞きたくないと思う子どもたち

【目的】性問題以前の健康に対する意識の向上

【目標】

- ・長期目標：「性感染症にならないための土台ができ健康を保つことができる」

- ・ 短期目標「心と体の健康的な生活習慣について学び健康的な行動を考えることができる」  
【課題・対策】
  - ・ 基本的な生活習慣を身につけることこそが感染症予防の第一歩であり、性の問題への対応以前のコースとしてコースの継続への学校の理解が必要である。
  - ・ 健康的な生活は自分自身の問題だけでなく地域の人々全体で取り組みが重要である。そこまでの学習に発展させられる内容の検討が課題である。
2. 松浦賢長，他：新しい性教育の展開に関する基礎的研究，厚生労働科学研究（子ども家庭総合研究事業）報告書，2003
  3. 松浦賢長：新しい時代の性教育を考える～思春期の性問題に対する現行学校性教育の限界～，日本性教育協会（JASE）研究月報，2004年5月
  4. 松浦賢長：いのちを教える，児童心理臨時増刊号，2005年1月

## V. まとめ

今回の難易度別コース方式による性の健康教育講義後，受講した生徒を対象に意識調査をおこなった。コース設定と講義内容に検討を加えた。得られた知見は以下の通りである。

1. 生徒が性の成長発達に応じてコースを選択することができるよう、内容を具体的に提示することが大切である。
2. コースの設定には、学校との調整を行うために準備期間にゆとりをもち、学校教師と地域保健師間での共通理解を図っていくことが成功の鍵である。
3. 性のイメージには個人差があり、中学3年生ではそのばらつきが大きい。それに対応するためには細かなコース設定の検討が必要である。
4. 細かなコースを設定するためには、学校側の協力が必要不可欠である。
5. 性の成長発達に応じたコースが受けられるためには、生徒の選択によるものに加え、保護者の選択や教師の選択による何度かのセッションが必要である。
6. 思春期の性の問題に直面するリスクの高い生徒には、より少人数制のコースが設定されるよう、地域保健師の専門性を活かした支援が必要である。

## VI. 参考文献

1. 松浦賢長，他：学校性教育をめぐる連携の理論構築に関する基礎的研究～性教育学を構築していくための試練の第一歩として～，厚生労働科学研究（子ども家庭総合研究事業）報告書，2004年